



かけはし

発行日：2013年 8月 1日 第27号

発行：国立病院機構



災害医療センター
地域医療連携室

発行責任者：院長 高里良男



チーム医療の推進 病棟薬剤業務を開始して

病棟薬剤業務は平成24年度診療報酬改定により新たに誕生した業務で、薬剤師が病棟で専門性を生かし様々な業務に取り組むことで薬物療法の有効性、安全性の向上、さらには医療従事者の負担軽減に貢献できることを期待されています。

今年度、当院薬剤科では病棟薬剤業務の実施に際し、薬剤師5名を増員していただき、5月から専任薬剤師を各病棟に配置し、6月から本格的に実施しています。

一般的な業務内容としては、患者さまの過去の副作用発現状況等の把握。医薬品緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報等医薬品情報を収集し、医療従事者に周知すること。患者さま持参薬の有無、薬剤名、規格、剤形等を確認し、服薬計画を医師等に提案する。注射薬と内服薬が同時に投与される場合には、相互作用の有無等の確認を行うこと、特に安全管理が必要な医薬品等の説明を投与前に行う必要がある場合には、病棟専任の薬剤師がこれを行うこと等が挙げられています。

当院では、患者さまの持参薬の鑑定、処方提案、持参薬と当院処方薬(内服薬、注射薬等)の相互作用等の確認、使用している医薬品について説明、退院時の内服薬の説明と確認等を実施しています。さらに、現在、業務の質の向上を目的に医師、看護師、薬剤師でワーキンググループを立ち上げミーティングを重ねております。

病棟薬剤業務を通して薬剤師が医療スタッフと連携を強化して、チーム医療を推進し、患者さまにも、医療スタッフにも病棟における薬剤師の必要性を認識していただければと考えております。



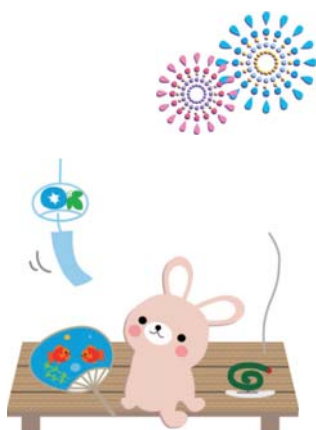
佐藤和人薬剤科長



薬剤師2人でダブルチェック



看護師と薬の確認



薬剤師も病棟のチームの一員



立川消防署救急隊と 災害医療センター 救急連携の会 開催



H25年5月17日に当院において、立川消防署と連携の会が開催されました。数年前から年1回、近隣消防と症例検討会を行っていますが、80~100名近い方々が集まる大きな会となっています。その場では率直な意見が聞こえない、顔の見える関係までは至らない等の問題があり、当院院長からもう少し小さな会を開き意見交換をしたいとの意向があり開催しました。直近の救急隊の方々とは当院の各科医師と管理職、看護師、委託研修生等が参加し、場所は当院9Wと言われるレストランで、4~6名のテーブルに座る形で開催しました。食事は、豪華なレストラン食とはいかず、ごちんまりとしたお弁当とおつまみ、でもアルコールは準備されていました。

伊藤統括診療部長の司会の元、消防の方々とは院内の職員の自己紹介から始まり、当院からの救急隊に対する意見はなく、むしろ聞き役に今回はまわっていた感じがしました。救急隊の方々も想いの丈を全て話されたかどうかはわかりませんが、いろいろな意見・要望が出ていました。良いことから、最後の砦のイメージがある・軽症患者様を搬送し重症患者様が見られなくなったら困るから、少し避けることはある・ただし基本直近制度で搬送連絡している。スタッフが非常によく働き患者様が重なっても受け入れをしてもらえます。



小笠原智子
副救命救急センター部長

お願い意見は、先ほどとはまた逆で発熱や下痢症状の軽傷患者様の受け入れ、要介護5や施設入居者の受け入れをしていただきたい。複数科の受け入れの際、何回か電話をかけ直しその科の先生の方の了承を受けなければならないところを一本化してほしい。電話連絡の際、人間として扱ってもらえない。家族がいないと受け入れしてもらえない、患者様のことを考えるなら、家族がいようがいまいが関係がないことと思う、と言う厳しい意見も聞かれました。患者様のことを一番に考えるならば、究極何も聞かずすべて事務のレベルで受け入れを行うのが良いのでしょうか。また何も聞かず「はいどうぞ」と全ての受け入れを行うと救急車の搬送台数も増えることと思います。ただし病院側の事情もあり、その患者様に最善の医療を提供するには、対応可能な科目であるか否かの判断は必要なことであり、救急活動におけるMCの部分でも電話口で必要なことは確認するべきものと考えています。患者様は病院を選ぶ権利があり、病院側は患者様を選ぶことはありませんが、最善の医療の提供に答えられないと予測される場合は、搬送をお断りすることがあります。ただ改めて医療従事者側と消防側にはすれ違いや温度差があることを感じました。

今回の連携の会では、病院側の改善しなければならないところや、病院側のスタンス等を明確には示されなかったと思います。この第一回目は軽いジャブ攻撃で終了していますので、この会を重ねお互いにストレートパンチやアッパーを打ち合うことにより、握手が出来る関係作りがなされ、これらが現場の医療に反映される必要があると思います。



高里院長による挨拶



現場での苦勞を共有



二次、三次救急の受入れ病院選定は！



松尾救急技術係長より要望





日本アレルギー学会準認定教育施設取得のお知らせ



2013年6月1日付にて日本アレルギー学会準認定教育施設(小児科)を取得いたしました。準教育施設での研修はその期間の2/3が日本アレルギー学会専門医資格申請の際の認定教育施設研修としてカウントされます。また、当科での3年間の研修に加え、集中研修(国立病院機構相模原病院臨床研修センター主催相模原臨床アレルギーセミナー)や日本アレルギー学会の教育セミナーを受講することで専門医の申請が可能になります。日本アレルギー学会専門医認定基準の詳細に関しては学会HP (http://www.jsaweb.jp/modules/specialist/index.php?content_id=2) をご覧ください。



横内裕佳子
小児科医師

現在小児科では専門医である横内を中心に気管支喘息、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎などの小児アレルギー性疾患、また皮膚科と協力しながらのアトピー性皮膚炎の診療を行っております。

気管支喘息に関しては各種パンフレットを用い、診断および治療導入の際のきめ細やかな説明を心がけ、吸入療法の指導や小学生以上のPEFモニタリングの導入、呼吸機能検査、アレルギー検査に基づいた生活指導等を実施しております。また、食物アレルギーに関しては、アレルギー検査結果を参照しながら、外来・入院での食物経口負荷試験、適切な除去食の指導、除去食解除の指導、栄養相談などを行い、年長児ではエピペンの処方と使用方法の指導も実施しております。

今後とも地域の先生がたとの連携を密にしながら専門施設としての役割を果たしていく所存ですので何卒よろしくお願いいたします。



気管支喘息の吸入指導



小児科スタッフ

(右から小池医長、棚井看護師、山高医師、横内医師)

地域医療連携室の対応時間拡充のお知らせ

地域医長連携室では開業医の先生方の夕刻からの診療に対応して、救急患者の受付を週日19時15分まで延長して行っております。救急を要する患者様がいらっしゃいましたらお気軽にご連絡下さい。

平日 8:30 ~ 17:15 ⇒ 8:30 ~ 19:15 に延長

電話番号 042-526-5613 (直通) 災害医療センター地域医療連携室

夜間 19:15 ~ 翌日8:30 (土曜日、日曜日、祝日は終日)

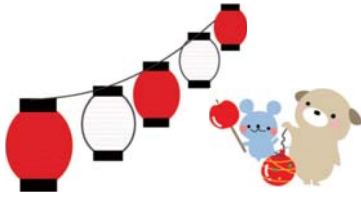
電話番号 042-526-5511 (代表) 災害医療センター事務当直

なお、通常の診療・検査予約に関しては、従来どおり

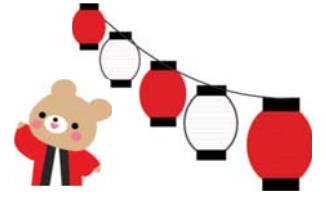
平日8:30~17:00(FAX 042-526-5547)とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。





新任医師紹介

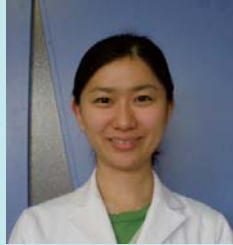


麻酔科
満田 真吾医師



麻酔科の満田真吾です。
杏林大学麻酔科から来ました。
より良い麻酔を目指し頑張りますので、宜しくお願いします。

循環器内科
増村 麻由美医師



循環器内科の増村と申します。東京医科歯科大学から参りました。どうぞ宜しくお願い致します。

心臓・血管外科
石井 雄介医師



外来は持っておりませんが、手術・周術期管理を中心にがんばって行きたいと思えます。宜しくお願いします。

膠原病・リウマチ科
満尾 晶子医師



7月から常勤となりました。新潟大学出身です。外来枠を増やし、微力ながら地域の医療に貢献したいと思えます。

循環器内科
大野 正和医師

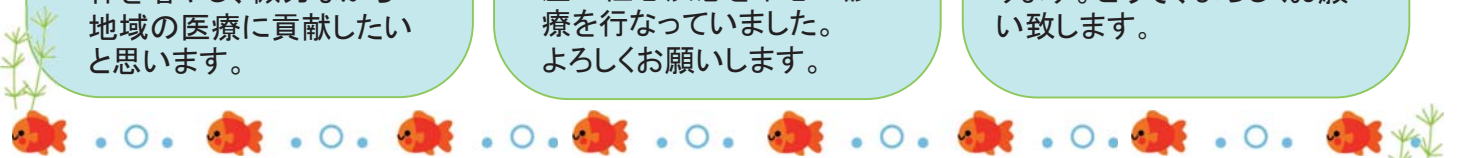


7月より赴任した、循環器内科の大野と申します。虚血性心疾患を中心に診療を行なっていました。よろしくお願ひします。

呼吸器外科
國光 多望医師



少しでも安心して快適な入院生活を送れるよう努力して参ります。どうぞ、よろしくお願ひ致します。



第2回医療手技体験実地研修のお知らせ

夏休み 高校生のドクター体験!

日時：平成25年 8月 9日(土)
13:00~16:00

場所：災害医療センター
医療手技研修センター

参加費：無料
定員：20名



第22回市民公開講座のお知らせ

脳卒中予防から最新治療まで

日時：平成25年 9月 21日(土)
14:00~16:00

場所：災害医療センター
地域医療研修センター

参加費：無料
定員：200名



医療連携ニュース「かけはし」へのご意見感想をお待ちしております。ご連絡は地域医療連携室までお寄せください。



【地域医療連携室直通】

担当：樋口早智子(ひぐちさちこ)

TEL:042-526-5613 FAX:042-526-5547

Eメール renkei@tdmc.hosp.go.jp